

国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）参加結果

- 令和7年6月25日（水）、城内内閣府特命担当大臣（宇宙政策）は、オーストリアのウィーンで開催された国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS：United Nations Committee on the Peaceful Uses of Outer Space）に出席
- **日本を代表して宇宙空間の持続的かつ安定的な利用の重要性を国際社会に訴えるとともに、日本が先行的に実施する、宇宙デブリ対策の技術開発及び規範・ルールとしての国内法やガイドライン整備の内容を世界に向けて発信**
- また、宇宙デブリ対策という国際社会共通の課題に対して、**日本は国連におけるルールメイキングの議論に主導的に取り組んでいく方針を表明**
- 具体的には、宇宙デブリを低減する軌道上サービスの実施に際して、**政府及び企業を含めたステークホルダー間で調整が必要となる事項の明確化**について、官民で協力して検討することとし、その**進捗と成果を国連等の国際社会に発信することで国連の議論に貢献**する方針を発表



城内大臣による発表の様子



国連宇宙空間平和利用委員会（会場全景）

国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）サイドイベント

- 令和7年6月25日（水）、ウィーンで開催されている国連宇宙空間平和利用委員会に出席した城内内閣府特命担当大臣（宇宙政策）は、**国連と日本が共同開催するサイドイベントでスピーチを行い、日本が世界に先行して取り組む宇宙デブリ対策の実例を紹介するとともに、宇宙デブリを低減する軌道上サービスの実施に必要なステークホルダー間の調整事項を明確化する検討を開始する方針を発表**
- 同イベントにおいては、株式会社スペースデータによるデジタルツインの取組の紹介、JAXAと国連宇宙部によるKiboCUBEの取組の紹介が行われるとともに、ホラ=マイニ国連宇宙部長の司会の下、株式会社 アストロスケールの岡田CEO、慶応大学の神武教授、内閣府宇宙開発戦略推進事務局の風木 局長等によるパネルディスカッションが実施された。



城内大臣によるスピーチの様子



パネルディスカッションの議論の様子
(左から) 風木局長、ホラ=マイニ国連宇宙部長